

《第 500 回(2023 年 3 月 9 日) 子どもの本の読書会記録》参加者:7人

時間:10:00~11:30 場所:オーテピア 4 階集会室

## 『何のために生まれてきたの？ 希望のありか』 やなせ たかし/著 PHP 研究所

今回はなんと、第 500 回目の読書会でした！記念すべき会ということで、高知県出身の漫画家・絵本作家・詩人で、アンパンマンの生みの親である、やなせたかしに関する本を読みました。本書は、NHK BS プレミアムの番組「100 年インタビュー/漫画家・やなせたかし」(2012 年 7 月 16 日放送)をもとに、単行本化されたものです。自身の生き方や戦争経験、アンパンマン誕生、東日本大震災に対する思い等が語られています。

次に、読書会に参加した方の感想を紹介します。

\*\*\*\*\*

●読みやすかった。やなせたかしはすごい人だけど、最初からすごかったのではなく、絶望せずにコツコツと努力し続けたから花開いたんだな、と思った。この本を、こどもや若者が読んだらどんな感想を持つか気になる。正義について書かれている章は、今の社会情勢をよく表している。また、「おしゃれは相手への思いやり」という言葉を読んで、自分も身だしなみに気を付けたいと思った。折に触れて読みたい本。

●自分は、『詩とファンタジー』で初めてやなせたかしを知ったので、詩人のイメージが強かった。食べることは命のもとだ、という考えが胸にささった。昔、知り合いで「アンパンマンは暴力の漫画だから、こどもには見せない」と言う人がいたが、そうではなく戦争の体験がベースになっている。亡くなって、改めてすごい人だったんだと感じた。やなせたかしの願いどおり、こどもが希望をもって生きられる世界になってほしい。

●読みやすくて、共感できることばかりだった。食べることは1番大切なこと、というのは、飼い猫や父の闘病に向き合った自分の経験でも強く感じている。倒れるときは前のめり、というやなせたかしの考えはとても良い。アンパンマンが人気になって、有名になっても、新しいキャラクターを作り続けた姿勢はまさに前のめり。自分も、前を向いて充実した人生を送りたい。

●20 年くらい前に、甥っ子たちと一緒にアンパンマンのコンサートを観に行った。やなせたかし(当時 80 代)もステージにいて、元気に歌っていたのを覚えている。本の中で、元気の秘訣は運動や鰻を食べること、等と語っていたが、ちょっと自分にはハードルが高いな……。やなせたかしが作詞した「手のひらを太陽に」の、「生きているからかなしいんだ」という歌詞は深い。

●お年を召されてからの姿の印象が強かったから、若い頃のやなせたかしの写真は新鮮だった。戦争体験と正義について書かれている章では、ウクライナで起こっている戦争を思い出した。「正義っていうのは、立場が逆転するんですよ」という言葉には共感した。国家間の戦争に限らず、個人同士のコミュニケーションでも同じことが言えると思う。そこを意識しながら行動していかなければ、と思った。

●アンパンマンはなぜ頭を食べられるのか不思議だったけど、この本に答えが書いていた。アンパンマンは、戦争を経験したやなせたかしだからこそ生まれたヒーロー。こどもには大切なメッセージがちゃんと届いていると思う。前向きで年齢を重ねても頑張り続けたやなせたかし。戦争の正義とは、ファシズムとは等、いろいろ学ぶところの多い本だった。

●戦争経験を経て生まれたアンパンマン。パン(欧米)とあんこ(日本)という、かつて敵国同士だった国の食べ物が融和してできた新しい食べ物がモチーフというところが、とても良いと思う。やなせたかしが亡くなったことは残念だけど、アンパンマンにはこれからも活躍してほしい。100 年後、やなせたかしが望んでいた平和な世界になっていたらいいな。

第 501 回目からも  
よろしく願います！

次回 4 月 13 日(木)10:00~11:30 オーテピア 4 階集会室

☑『飼育員さんのすごいこたえ』淡路ファームパークイングランドの丘/著 ワニブックス

※申込み・参加費は不要です。